

## 「創造的・論理的思考」を鍛える21世紀型教育

—「故郷」(小説教材・中学3年)におけるパフォーマンス評価・メタ認知—

佐藤 洋一\* 有田 弘樹\*\*

\*教職実践講座 \*\*安城市立安城西中学校

### 21st Century Education which improve Creative and Logical Thinking

—Performance Evaluation and Metacognition on "Hometown(Novel

Materials for a Third-year Student at Junior High School)"

Yoichi SATO\*, Hiroki ARITA \*\*

\*Graduate School of Practitioners in Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

\*\*Anjo-nishi Junior High School, Anjo 446-0052, Japan

#### 要 約

次世代型教育(21世紀型教育)の構築、次期学習指導要領(審議のまとめ)の中では「新たな価値の創造」「深い人間的な学び」、各教科等の本質における学びの過程(習得・活用・探究段階)、伝統文化の尊重、討論や議論の評価力等と相互に関連させられ強調されている。第四次産業革命・グローバル社会が進行する現代、多様で膨大な「情報」から価値ある情報を選択し、知識や経験・感情(立場や専門性)との関連性から統合・構造化、既知の知識・技能等の構造転換等を通し、新たな意味・価値をもつ「自分の考え」を形成する学びの方略・情報リテラシー(いわゆる創造的思考・判断・表現力)を系統的に指導していく必要がある。

「新たな価値の創造」「人間的で深い学び」、これらを支える創造的・論理的資質・能力等は、解のない、複雑多様な価値観や情報の時代をたくましく生き抜くために不可欠な資質・能力、その重要なキーワードとして位置付けられている。ただ、「審議のまとめ」段階では、創造性と論理性の相違と重なり、習得・活用・探究段階と発達段階・系統性(メタ認知・汎用性)、各教科等の学びとの関係・評価方法(ルーブリック、パフォーマンス評価)等の記載は極めて断片的である。いわゆる創造性は高度な批評性や判断力(洞察力、感受性等も含む)、発想・表現力の個性等の組み合わせであるため、今後、教育現場でどのように実践化していくかが大きな課題となる。本稿では中学校3年・小説教材「故郷」(魯迅)における実践事例、パフォーマンス評価・メタ認知の開発提案を通じ、「創造的・論理的思考」を鍛える21世紀型教育の在り方について提言するものである。

Keyword : 創造的・論理的思考 パフォーマンス評価・メタ認知 テキスト形式(構成・表現)と評価

#### 一 次期学習指導要領と新たな学び(21世紀型教育)

##### 1 新たな価値の創造と学びの深さ

次世代型教育(21世紀型教育)構築の基軸となる次期学習指導要領(審議のまとめ、答申予定)の中で、とりわけ重視されていることは何か。ここでは新たな時代・価値観に対応した資質・能力(キー・コンピテンシー)育成の観点からの学習指導要領の構造化、具体的な実践化の課題という観点から捉えてみたい。

「習得・活用・探究」の学習過程・伝統文化の尊重と継承等(教育基本法・学校教育法で明記)を踏まえた、いわゆる「論理性を踏まえた創造性(新たな価値観や生き方の創造や提案、洞察力や批評性)」「質的に深い(人

間の本質的)な学び、への方向性が示されたということができる(下線部は佐藤・有田による、以下同じ。注1)。

今後は、こうした「創造的・論理的思考」につながる学びや「深い人間的な学び」を、学習者自身が主体的に身に付け(習得)活用・探究していく学びのデザイン・方略(ストラテジー)の開発と提案が求められている。

また、未知の課題を解決する創造的(批評的な)活用・探究型の授業と評価、学習者自ら(指導者も)学びを的確に見取り評価(メタ認知化)するためのパフォーマンス課題・評価(多義的多面的な課題解決能力の評価方法、論述、議論や討論、提案、批評・鑑賞等)、ルーブリック開発の新たな実践課題が重要である。

## 2 「創造的・論理的思考を高める、教育とは

では、いわゆる「創造的・論理的思考を高める」ことと国語科で育成すべき資質・能力としての「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」(の観点＝評価の三つの観点)の関係はどのような関連があるのか。特に「思考力・判断力・表現力等」の記述と具体化について引用、要約しながら紹介する(Ⅰ～Ⅳの下線部は佐藤・有田による、注2)。

○「思考力・判断力・表現力等」には Ⅰ言語の働きを捉える三つの側面(①創造的思考を支える論理的思考の側面、②感性、情緒の側面、③他者とのコミュニケーションの側面)に着目しながら、国語で理解したり表現したりするための力として、「情報を多角的に・多面的に精査し、構造化する力」、「言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力」、「言葉を通じて伝えあう力」、Ⅱ「構成・表現形式を評価する力」、Ⅳ「考えを形成し深める力」が挙げられる。

○特に、これからの子ども達には、Ⅲ創造的・論理的思考を高めるために「情報を多角的に・多面的に精査し構造化する力」がこれまで以上に必要とされるとともに、自分の感情をコントロールすることにつながる「感情や想像を言葉にする力」や、他者との協働につながる「言葉を通じて伝えあう力」等、三つの側面の力がバランスよく育成されることが必要である。また、より深く、理解したり表現したりするためには、「情報を編集・操作する力」、「新しい情報を、既にもっている知識や経験、感情に統合し構造化する力」等のⅣ「考えを形成し深める力」を育成することが重要である。

## 二 「創造的・論理的思考」の育成、何が課題か？

### 1 指導観・評価観の不明確さ—表現力の観点—

上記の文言、Ⅰの「①創造的思考を支える論理的思考の側面」、Ⅲの「創造的・論理的思考を高めるために」の文言にもみられるように、とりわけ学びの創造性の重視とそのための情報リテラシーや論理的思考力・表現力、場面や目的に合った論述、討論・議論を評価する力、プレゼンテーション能力等が強調されている。一方、学びの創造性の重視は「学びに向かう力、人間性等」の記述にも一貫しており、『学びに向かう力、人間性等』には、言葉を通じて社会や文化を創造しようとする態度を育成するために…(略)とも記されている。

こうした教育的方向の重要性は十分理解できるが「学びの創造性と論理性」、その授業構想や評価、学びの段階や系統、評価観等は実践課題となる。また「創造的思考」「論理的思考」と記述され、いわゆる思考力と判断力や表現力との関係性・構造、評価観も示されていない点もわかりにくい。創造性を支えるのは論理性…とは総論的には理解できるが、子ども達は授業場面で具体的にどうなったらいいのかの評価観が不鮮明なままである。

### 2 「三つの側面」の相互性、資質・能力との関係？

さらに「思考力・判断力・表現力等」を言語の働きを捉える三つの側面としているが、「①創造的思考を支える論理的思考の側面」と「②感性、情緒の側面」「③他者とのコミュニケーションの側面」の相互性、構造(学びのステップ、段階も)が理解しにくいのではないかと。これらはその下位概念としての資質・能力(「情報を多角的に・多面的に精査し、構造化する力」「言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力」「言葉を通じて伝えあう力」等)とリンクしているため、具体的な授業場面での指導と支援、評価に直接かかわる点である。これらの点はワーキンググループ資料・「審議のまとめ」等を見ても、私には十分な説明とは思われなかった。

### 3 「構成・表現形式を評価する力」の重要性

「思考力・判断力・表現力等」を高め「創造的・論理的思考」を高めるため「Ⅱ「構成・表現形式を評価する力」、Ⅳ「考えを形成し深める力」が重視されている。この二つは別々に考えることもできるが学びの創造性(論理的、批評的)とともに非常に重要な論点である。

特に、「構成・表現形式を評価する力」は多様なテキストの構成・表現形式の評価(判断)、活用、メタ認知能力等のことと思われるが、ワーキンググループ資料・「審議のまとめ」等には具体的な記述は十分には見られない。以下「創造的・論理的な学び」「深い学び・人間的な価値ある学び」をどう構想するか、活用・探究的資質・能力(学力)を育てる「多様なテキスト形式」の解明という観点から触れておきたい(詳細は略、注3)。

求められる21世紀型教育、資質・能力ではこれまでのように「思考力・表現力を育てる」ことだけではなく、「表現力」の質的な価値、深さやその本質性・汎用性、評価観等が問われている。また「判断力」と結びついた具体的なパフォーマンス、その指導・評価観も具体的に問われているということが出来る。例えば、テキスト形式固有の魅力や本質を踏まえたメタ認知や評価観、論述・プレゼン・質疑応答の質的価値、話し合いや議論を深める力・評価する力、他者と協働する力、新たな価値の創造や提案、実践と参画等である。

## 三 近代小説「故郷」(魯迅)のテキスト形式

### 1 なぜ、近代文学(小説教材)を学習するのか？

近代小説は市民社会における課題を社会や家族、国家、制度等との関係を通して「個性的な人物像の発見と創造」「心理描写の技法による人間の内面の表現」「社会や時代と個人との対立の構図」等として表現してきた。

近代小説を学習することは解のない複雑多様な価値観や情報であふれる現代社会をたくましく(自分らしく)生き抜き、自己と社会を見つめる眼や判断力、感受性を高めることができる。また文学テキスト特有の構成・表現形式を学ぶこと(描写・語り、構成等の解釈と批評、創作等)を通じて「論理的な言語」のもつ重要性とは異

なる人間的で深い言語と表現の可能性(生の実感や価値)を学ぶことができる(注4)。

## 2 近代小説教材「故郷」(魯迅)のテキスト形式論

「故郷」(魯迅・竹内好訳)は歴史と人間、国家・組織や因習との関係、多様な人間像の造型と意味、優れた描写や語り・構成等を通じて、いつの時代でも時代の価値観を正しく捉え、批評的・創造的に生きることの大切さを教えてくれる近代小説の一つである。

作者魯迅が生きた当時の中国は、辛亥革命により清朝の専制君主制が倒れ、日清戦争、北清事変、日露戦争の影響で、多額の賠償金の支払いや国内情勢の悪化から政治的・外交的・経済的に多くの課題を抱えている状況であった。魯迅は「わが眼底を通過した中国人の人生」「病態社会の不幸な人々の本質と、その中にある人間と社会の普遍性を事実の記録に基づく虚構化の方法で描いた。清朝末期の非人間的な封建社会や制度・迷信の中で「無告の民」として死んでゆく愚かな民衆の姿、封建社会の支配者(形成者)が民衆を、そして民衆同士が互いに食い合う「喫人」の残酷さと相互無理解の隔絶感を描こうとしたといえる。こうした問題をより効果的に描くために、表現の視点として、報告者(記録者=語り手・視点人物)を設定し、「社会」を虚構化することで、人間像の中にある本質と普遍性を描きつつ、人物を取り巻く「社会」を告発したと読むことができる。

「故郷」は「私」という報告者(記録者・語り手)であり視点人物の語りと描写・人間像の変化を通して、清朝末期の制度を批評し当時の時代的な価値観や権力に翻弄される民衆の哀しみや悲慘さを描いていることが大きな魅力である。また「レントウ」や「ヤンおばさん」(中心人物)は教育を受けたり教養を積んだりすることのできない民衆(貧しくて身分の低い立場にある男女の代表)として描かれていることも重要なポイントである。これら人間像のイメージの変化、それによって語られる作者の思想、社会の中の人間のテーマ、細密で詩的な描写(ペーソス)等に近代小説としての重要な特質がある。

「レントウ」や「ヤンおばさん」の描写・イメージを支えているのは、魯迅の現実洞察力の深さ、批評精神であるとともに、詩人としての優れた感性にあるといえる。これらを踏まえることで、単に「私」の心境を追ってだけでなく、その背後にある批評性や社会を見つめる鋭い眼差しといった、近代小説としての価値や魅力を味わうことができると考えられる(注4)。

## 3 テキスト形式をいかした近代小説教材の学び方

近代小説教材「故郷」のテキスト形式をいかし生徒達に、近代小説を読む楽しさを方法(戦略と評価)、創造的・批評的な資質・能力(確かな習得から考えの形成、論理的な思考と表現、説得力ある批評等)を育てるため、本実践研究では近代小説特有の本質的な学び方(型)の観点を、以下の12のポイントとして整理した(注4・5)。

(1) 状況設定(人物、舞台、時代等)を理解する。

- (2) 時代的な価値観・常識的な考え方を理解する(背景)。
- (3) 小説特有の場面構成(構造)を理解する。
- (4) 中心人物の変化・変容と理由を読み取る(段階も)。
- (5) 視点人物の役割と効果を読み取る(語りの方略)。
- (6) 対比人物群の役割と効果を読み取る(虚構化の方法)。
- (7) 優れた描写や象徴的イメージの意味を読み取る。
- (8) 作品のメッセージを読み取る(解釈と批評、論述)。
- (9) 自分の興味関心・課題意識から自分の考えをもつ。
- (10) 近代小説のテキスト形式(構成・表現形式)について批評する文章を論理的に構成する(批評)。
- (11) 発表・交流を通し、さらに自分の考えを形成・深化させたり、生き方・価値の創造にいかしたりする。
- (12) 近代小説のテキスト形式の学び方をメタ評価する。

## 四 【実践】「創造的・論理的思考力」を鍛える授業開発 —魯迅「故郷」(中学3年)を例に—

### 1 生徒の実態と課題—何が・どう課題か?—

#### (1) 近代小説(テキスト)を批評する方法の体得

「何がわかれば、どこに着目してどんな考えをもてればよいのか」等、自分の興味関心・課題意識をいかしつつ、近代小説のテキスト形式を批評するための観点到無自覚で、自分の考えを形成することに苦しむ生徒が多い。

#### (2) 論理的に学び合い、新たな価値を創造する

「考えはあるけど上手く伝えられない」「根拠を求められるわからなくなる」「あっているかわからないから語れない」等、自分の考えはもてても「論理的に」伝える方法がわからなかったり、どんな考えをもてればよいのかがわからなかったりして学び合えない(新たな価値を創造できない)生徒が少なくない。論理的に考えを語り合い(学び合い)、新たな学び、価値を創造させる。

#### (3) 小説教材の学びを通して自己を語り、生き方・価値観の形成・創造につなげる(人間的な学び)

「何のために小説を学ぶのか」「学んだことがどう今後の自分にいかせるのか」等、小説教材を学ぶことの意味や楽しさ、どう今後の自分の生活経験や生き方・価値の形成・創造につながる視点に気付けない生徒が多い。

### 2 学習目標(到達目標)

- (1) 小説の基礎・基本的な読み方の観点に沿って自分の考えをもち、状況・人物設定や人物関係、場面構成・展開を正確に読み取ることができる。

#### 【習得1—学びの主体性と意欲化—】

- (2) 当時の常識的価値観(清朝末期の中国)から中心人物の変容と理由、視点人物・語り手の役割と効果、象徴的なイメージについて自分の考えを形成できる。

#### 【習得2—小説のテキスト形式の習得・活用—】

- (3) 自分の興味関心・課題意識から、「故郷」の構成・表現形式(テキスト形式)について批評した文章を、論理的にまとめることができる。

#### 【活用1—情報の選択・構成とテキスト批評—】

- (4) 批評した文章を互いに交流・批評し合い、自分が



選択・判断・構成した分析・考察の観点や内容、表現方法についてより深く考えることができる。

**【活用2—学び合いと考えの深化・評価—】**

(5) 身に付けた能力や学びの汎用性に気づき、自己の生き方や価値観を形成・創造しようしたり、新たな課題発見・解決につなげようしたりできる。

**【振り返り—学びの汎用性とメタ化、探究へ—】**

**3 学習指導計画（単元構想）（省略）**

**4 近代小説教材の授業実践—習得から活用・探究—**

**（1）導入・基礎学習【習得型学習1】（1時間）**

**—生徒に興味関心・課題意識をもたせる—**

導入では、タイトルや作者名から「どこが舞台となっているか?」「どこの国の話か?」と問い興味関心をもたせた。学習シート①（略）を使い近代小説の学び方を簡単に紹介し本文を音読。その後、小説の基礎的な観点（興味関心、疑問、大切な場面、気になった人物・もの）に沿って初発の感想を書かせた。生徒からは「話の内容・誰が中心人物なのか・人物の関係がわからない」「何を伝えたいかわからない」「最後の場面は象徴的だけど何を意味しているのか」等が出された。初発の感想を交流した後、「故郷」のテキスト形式（どんなねらいをもって表現したのか）について批評した文章をまとめることを生徒達に伝えた。

**（2）基本学習【習得型学習2】（4時間）**

**—テキスト形式批評のための観点を身に付ける—**

生徒達が近代小説「故郷」のテキスト形式について批評できるための観点を学ばせた。まずは、学習シート②（略）を使用して、状況設定（人物設定や関係、舞台、時代等）を表にまとめさせた。その後、小説特有の場面構成（構造）を確かめて、内容（全体像）をキーワードレベルで簡単に捉えさせた。

次に、学習シート③（資料1）を使い中心人物の変化（変容）を読み取らせ、理由を解釈させた。多くの生徒達が「誰が中心人物なのかかわかにくい」と考えていたが「今と昔とで一番イメージが変わったのは誰か?」と発問すると、「ルントウ」と「ヤンおばさん」が出された。二人の変化（現在と過去）を読み取り、語り・描写からそれぞれの人物の性格等を解釈した後、「なぜ、この二人はこんなにも変わってしまったのか?」と発問しグループで考えさせた。わからない生徒達を支援するため、時代背景（時代の価値観・常識的な考え方）をまとめたシート（略）を配布した。このシートには、①魯迅の生い立ち、②魯迅が生きた時代（年表形式）、③「故郷」が描かれた時代背景（清朝末期、敗戦による半植民地化、革命による中華民国の誕生、変化のない実態）、④当時の中国国民の暮らし向きを写真やイラストを活用して掲載した。生徒からは「敗戦や革命で治安が悪化し、さらに税金も取られたことでこんなにも変わってしまったんだ」「時代の流れとともに人はこんなにも変化してしまうんだ」「生活が貧

しくなると心まで貧しくなってしまうんだ」等の意見が出され、変化の理由に気付くことができた。

学習シート④（資料2）を使い視点人物・語り手である「私」の役割や効果（メッセージ）を考えさせた。「私」の設定や立場について語り・描写から読み取った後、「近代小説『故郷』では、裕福で権力をもつ『私』が『ルントウ』や『ヤンおばさん』等を語ることに意味がある」と説明し「彼らを語ることで、どんなことを伝えたかったのか?」と発問した。生徒からは「ヤンおばさんを通し男女差別による女性の苦しさを伝えなかった」「ルントウを通し時代のせいで身分の低い男性の姿を描きたかった」「子どもたちを通し新しい中国の姿や経験しなかった希望を託している」等、多様な解釈を楽しみつつ、論理的に交流することができた。

学習シート⑤（資料3）を使い優れた描写や象徴的イメージについて豊かに解釈させた。「地上の道」が「私」の理想とする「希望」であること、「希望」には「みんなが力を合わせるころから『道』に例えた」「遅れた中国社会を立て直すための『私』の決意の表現」等の解釈が出された。その後、生徒達に象徴的イメージを自由に見つけさせて論理的に解釈させた。見つけられない生徒のためにシートには①金色の丸い月、②悲しむべき厚い壁、③纏足、④きらきら光る銀の首輪、⑤その他を提示した。生徒からは「纏足は、女性であることを社会に押しえつけられ、身分が固められてしまったこと（遅れた中国社会・文化）の象徴」「悲しむべき厚い壁は、身分や貧富の差によって生まれた『心の壁』を意味している」「何気なく出てくるものが作者の考えやねらい、当時の中国社会を表現していることに驚いた」等、グループでインターネットの情報を活用して、楽しみながら解釈できていた。

**（3）発展的学習【活用型学習1】（2時間）**

**—近代小説「故郷」のテキスト形式を批評する—**

これまで学んできた近代小説のテキスト形式を批評する観点をいかし生徒に批評文を論理的に書かせた。まず批評文のモデル（略）を配布して生徒達にイメージをもたせた。次に学習シート⑥（資料4）を使用し、自分の興味関心・課題意識から分析の観点を二〜三つ選ばせこれまでの学習シートを参考にさせながら分析させた。書くことに苦手意識をもつ生徒の実態を考慮して、論理的な文章構成の型（はじめ・なか・まとめ・むすび）をいかし批評文の構成を考えさせた。

その後、学習シート⑦（資料5）を使い近代小説「故郷」のテキスト形式について批評する文章を、論理的な文章構成の型をいかし700〜800字程度で書かせた。具体的には「はじめ」＝【話題の提示】作品の紹介と生徒個々の課題意識、「なか1」＝【具体例1】作品のあらすじ、「なか2・3」＝【具体例2・3】批評の観点とその分析の内容、「まとめ」＝【考察】具体例をもとに考えたこと、「むすび」＝【結論・一般化】

資料1

中心人物の変化・変容を読み取り、その理由について「自分の考え・解釈」をまとめる学習シート

- 1 中心人物であるルントウ・ヤンおばさんの変化・変容をキーワードで記入させ、その理由・きっかけをまとめるシートである。
- 2 人物の容姿や様子、象徴的な表現等から、ルントウ・ヤンおばさんの「現在」と「過去」を対比的かつ論理的に読み取らせ、変化の理由・きっかけを考えさせるステップとする。
- 3 変化の理由を考えさせる時、時代背景をまとめた資料（ここでは省略）を活用すると効果的である。

※資料1～6はすべて自作の学習シート（作成・有田弘樹）

資料2

視点人物（語り手、記録者・報告者）の役割や効果、メッセージについて「自分の考え」をまとめる学習シート

- 1 語り手の視点人物である「私」の設定や立場を読み取らせた後、それぞれの人物を「私」が物語ることで伝えたかったこと（メッセージ）を解釈させるシートである。
- 2 前時までに読み取った中心人物（ルントウ・ヤンおばさん、庶民としての男性・女性）の変化・変容とその理由を活用させたり、対比人物であるホンル・シュイション（未来に向かう子ども）の役割等についても着目させたりして記述させる。

資料3

作者がねらいをもって表現した「象徴的なイメージ」について「自分の考え」をまとめる学習シート

- 1 作者が意図的に登場させた象徴的な（シンボリック）イメージについて「自分の考え・解釈」をもたせ小説を読むことの魅力や楽しさに気付かせる。
- 2 「地上の道」＝「私」が理想とする「希望」への決意の表現であることを読み取らせた後、自分の興味関心や課題意識から象徴的なイメージについて個性的に分析・解釈、記述させる。
- 3 タブレット端末でインターネットの情報を活用させるとより効果的である。



資料4

近代小説「故郷」のテキスト形式について  
「自分の考え」を批評的・創造的にまとめる学習シート（批評するための視点の選択・判断・分析と思考の再構成）

- 1 批評することの意味を理解させた後、学んできた近代小説「故郷」のテキスト形式の分析の方法を活かし「自分の考え」をもたせ、それらを論理的に再構成させるためのシートである。
- 2 書くことに苦手意識をもつ生徒の実態を踏まえ、論理的な文章構成の型（はじめ・なか・まとめ・むすび）を活かした書き方の指導もあわせて行うことで、批評文を論理的にまとめさせるステップとする。

資料5

近代小説「故郷」のテキスト形式について  
「自分の考え・解釈」を批評的・創造的にまとめる学習シート

- 1 近代小説「故郷」のテキスト形式を活かし、自分が選んだ視点についての批評を論理的に構成し、まとめるための論理的思考力・表現力育成シートである。
- 2 前時までにとまとめた「構成メモ」（資料4）を活かしつつ、論理的な文章構成の型（習得）に沿って記述させる。
- 3 書けない生徒については、書き方のポイントを参考にさせたり、個別に指導・支援したりしながら記述させる。

資料6

近代小説で学んだことを「振り返り」、身に付けた能力や学びの横断的・汎用性について「自分の考え・解釈」をまとめるシート

- 1 近代小説「故郷」の学習を通して身に付けた能力や学びの汎用性（一般化の視点）に気づかせ、自己の生き方や価値観の形成や新たな課題発見・解決につなげていくためのシートである。
- 2 各授業において到達目標を提示して、学びの到達度を三段階で自己評価させたり、わかったことや考えたことを記述させたりする（段階はねらいによる）。
- 3 授業や単元全体を通し学びのゴールや学習段階を確認できるようにし、主体的・意欲的に学べるようにする。

現代の視点から作品を読む意味（評価・メッセージ）、自己の生き方や考え方、社会との関わり方（汎用性）とした。タイトルは二つの型から生徒個々に工夫してつけさせた。①伝えたいことをまとめたキーワードの組み合わせ【基本型】、②相手をひきつけるようなイメージのキーワードの組み合わせ【応用型】とした。

生徒からは『なか』の部分は『まとめ』のあとに書く等、順序を考え書くことでまとめることが整理されたり相手にわかりやすく伝わるように工夫できた」

『なか』には自分の気持ちや意見を書くというよりは、作者である魯迅がどんなねらいや目的をもって表現したのかを書く方が批評になる」等が出された。

#### （4）発信・交流学习【活用型学習2】（2時間）

##### —友達の見方・考え方を学び合い自己につなげる—

批評文を互いに交流・批評し合い、自分が選択・判断・構成した分析・考察の観点や内容、表現方法について学び合う学習を行った。短時間でシンプルにさらに質の高い深い学びとするために、評価・批評するための観点（五つ）を学習シート⑧（略）に提示、グループで交流させた。具体的には①タイトルの付け方、②論理的な文章構成の型の活用・工夫、③テキスト形式の分析・解釈の深さ、④具体例に対応した考察の記述内容、⑤価値ある新しい見方・考え方の発見とした。

その後、学習シート⑨（略）を使用し、グループで選ばれた代表者（九名）を教師が三名にしぼり学級全体で発表会を行った。生徒からは「〇〇くんの発表は、『ルントウの名前の意味』に注目しているところが授業で扱わなかったところだったのでとても新しい見方だと思ったし、聞いていてなるほど！と思った」「『纏足』のことを分析しているけれど、〇〇くん自身は『纏足』のことをどう評価しているの？」「『金色の丸い月』の分析なのに、どうしてあらすじを『ヤンおばさん』中心にまとめようとしたの？」「〇〇さんは『平等に全員で助け合い』って言うけれど、本当に実現可能なのかな？」等、課題に対する鋭い指摘や意見、過去と現代を結びつけるような意見、さらには今ある日本の社会問題をどのように解決していければよいかといった汎用的な…意見交流まで行うことができた。

#### （5）振り返り学習【評価・一般化】（0.5時間）

振り返りシート（資料6）を使い毎授業後に学びを振り返らせた。授業毎に到達目標を提示し、各項目毎に「◎・○・△」で自己評価、わかったことや考えたことを記述できるように構成した。また、生徒達に一時間の授業や単元全体を通し「何が・どうなればいいのか」「どんな能力を身に付けられるのか」という学びのゴールや授業の段階的な位置付けを（見直し）確認しながら意欲的に取り組めるようにした。

単元終了後には、単元全体を通した振り返り学習を行った。ここでは、1わかったこと（学びの発見や知的な楽しさ・意欲化、身に付けた能力の自覚化、友達

の再発見等）と、2考えたこと（新たな疑問や課題の発見、自己の生き方や価値観の形成・創造、他教科や活動・今後の学びにつながる汎用的な視点の獲得等）の二項目を記述させ振り返ったことを発表させた。

生徒からは、①近代小説教材を深く読むことの意義や楽しさ、②新しく学んだことや身に付けられたこと、③友達から学び合い新たな価値を創造することの魅力や楽しさ、④自己の課題を発見し解決しようとする、⑤今後の豊かな読書活動にいかそうとする、⑥今後の自己の生き方や価値観の形成・創造につなげようとする、⑦今後の自己の夢や目標（進路）の実現に向けようとする、⑧現代社会（・学級）が抱えている問題の解決に貢献しようとするもの等が出された。

## 五 新しい学びの創造、その課題・論点とは？

### —論理性を踏まえた“創造的で深い学び、を—

#### 1 学習過程論と学びの保証—習得と活用・探究—

「審議のまとめ」では「国語科における学習過程のイメージ、別添二―三」も提示されているが、認知過程や問題解決の過程の枠組みを示しているものであり、授業過程論としては未整理の段階と言わざるを得ない。

第一に、全員に論理的な学び（確かな習得）を踏まえた創造的・批評的な学び（活用・探究）を評価方法も含め構想する必要がある。換言すれば習得と活用・探究（学習過程論）への学びの段階的・系統的（汎用的な）位置付け、カリキュラム・マネジメントの必要性である。

「習得・活用・探究」の過程や伝統文化の尊重と継承等（教育基本法・学校教育法他）を踏まえた「論理性（習得）を踏まえた創造性（活用・探究）」の育成が必要である。つまり新たな価値観や生き方の創造・提案をめざした授業構成、そのために必要な深い、本質的な洞察力（判断力・批評力）や提案する力としての表現力（多様なテキスト形式、議論や討論、論述、プレゼン力等）、写真やグラフ等の非言語情報も含んだ情報リテラシーの明確化、系統的指導観・評価観等が求められる。

#### 2 「学びに向かう力、人間性等（深い学び）」

学校教育で新たに重要となるのは、全教科・領域や活動のベースに「学びに向かう力（主体性）、人間性等（深い学び）」があるということ。学習全体を通しどのように社会や世界と関わり、どう主体的によりよい人生を送るか等、児童生徒の「生き方」や価値観の更新に直結する「深い人間的な学び」につなげることが必要である。

そのためには言語活動や学び合いありき…の学習ではなく（「三」～「五」参照）、教科内容・テキスト形式の本質的で原理的な魅力を引き出す「学び方（型）」、例えば小説教材（伝承、物語、近代小説、ファンタジー等）や伝記教材等のテキスト形式（構成・表現形式を踏まえた学習をデザイン、評価する必要がある（注3・5）。

#### 3 「創造的・論理的思考」とパフォーマンス評価

こうした「深い人間的な学び（学びの創造性や論理性、



批評性の在り方)」を的確に見取り評価する、メタ認知化していくようなパフォーマンス課題・評価（論述・論証、議論や討論、提案、批評・鑑賞等）、本質的なルーブリック開発と実践への新たな視点が不可欠である。

『主体的な学び』の実現に向け（略）身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすること等（略）特に、学習を振り返る際、子供自身が自分の学びや変容を見取り自分の学びを自覚することができ、説明したり評価したりすることができることの重要性（「学習・指導の改善充実や教育環境の充実等」注1）についての指摘がある。

国語科学習はこのような資質・能力、全ての教科・領域・活動の基盤であり中核となる教科である。学習過程と振り返り（メタ認知化）における「主体的な学び」「学びに向かう力（人間性等）」はそれ等を貫く基盤である。

#### 4 「構成・表現形式を評価する力」とテキスト論

「二」の2でも述べたが「国語科において育成を目指す資質・能力の整理（案）」では多様なテキスト形式に関することとして、「文章の種類に関する理解」（「知識・技能」の項目）「構成・表現形式を評価する力」（「思考力・判断力・表現力等」の項目）が明記されている。

ちなみに高校・外国語科の新選択科目「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）」は「発表や討論・議論、交渉の場面を想定し、外国語による発信能力を高める科目群」であり、新科目「論理国語」との汎用的関係が極めて深い。これはかつての日本の高校二年生における論理的思考力調査における課題克服の系統的な戦略を見ることが出来る（「特定の課題に関する調査（論理的思考）」国研）。

しかし、管見では「構成・表現形式を評価する力」と多様なテキスト論（目的・役割に応じた表現論）に関する系統的な指導観や評価観、理念等の言及はほとんど見られない。例えば、報告・鑑賞・評論・批評、随筆等は何がどう違うのか、詩歌や随筆、物語・小説の創作で何をどう書かせ、どう評価すればよいのか。説得力ある調査報告やプレゼンテーション、深める質問…等の条件や評価基準（ルーブリック）は何か。

今後はこうした創造的（論理的）・批評的な学びの開発と評価方法の課題に対し、実践的な授業提案と考察、検証等を通して応えていくことが必要である。「創造的で深い学び」、真の課題解決や生き方につながる「価値ある学び」等の高度で複雑なパフォーマンスをどう指導・支援、評価するのか、ルーブリック評価・基準による授業改善・検証（公的説明・エビデンス）が求められるからである。

#### 〈注記、主な参考文献（一部のみ）〉

- 1 文科省初等中等教育分科会（教育課程企画特別部会）「次期学習指導要領等に向けた審議のまとめ」（2016年9月パブリックコメント版）。佐藤洋一「論理性（習得）を踏まえた『創造的で深い学び、へ』『国語教育 2016年12月号

No804』（明治図書）、同「これからの学び・教育の何を、どう創るのか」『21世紀型教育研究・創刊号』（21世紀型教育研究会編著、2016年5月）、有田弘樹「主体的・能動的に学ぶ子どもを育てるための21世紀型授業開発を」『同』等。

- 2 「審議のまとめ」（注記1）、「国語ワーキンググループにおける取りまとめ案」（教育課程部会）等、詳細は略。
- 3 佐藤洋一・森和久・有田弘樹「国語科におけるアクティブラーニングの開発と課題－『質の高い深い学び』につながる活用型テキスト－」（『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第一号』2016年）、佐藤洋一「批評的・創造的な学びの授業開発－テキスト形式に着目した21世紀型学習－（第127回全国大学国語教育学会（筑波大会）発表2014年11月）。
- 4 佐藤洋一「文学教材解釈への一視点－『故郷』（鲁迅）を例に－」（『日本文学 No.43』（日本文学協会、1989年）、同「内なる他者としての植民地支配－安岡章太郎『球の行方』の描写力－」（『日本文学 No.518』（同上、1999年）、同「大岡昇平・初期作品論（上下）」『国文学・言語と文芸 第116・117号』（言語と文芸の会、1999年2000年）、同「小説教材解釈への視点」『国語科教育 第37号』（全国大学国語教育学会編刊、1990年）、同『月に吠える』詩編の構造』（『日本近代文学 第25集』（日本近代文学会、1978年）、同「物語・小説の言語技術教育論」（『愛知教育大学研究報告 第44輯』1995年）等。
- 5 有田弘樹「『学びの楽しさ』を実感し『創造的・論理的思考力』を高める生徒の育成」（第47回安城市教育委員会教育研究論文2017年1月）、同「『テキスト形式』を生かす21世紀型学習」（第129回全国大学国語教育学会（西東京大会）発表2015年）等（略）。

#### 〈付 記〉

- 1 本稿は佐藤・有田による共同研究であり学会発表・佐藤洋一「多様なテキスト（情報）の『構成・表現形式』・評価」、有田弘樹「小説教材で『深い学び・人間的な学び』を創る」（ともに第131回全国大学国語教育学会（東京大会）2016年10月15～16日、白百合女子大学）を骨子としている。
- 2 本実践は2016年10月に安城市立安城西中学校の第3学年4クラス（144名）でのもの、紙面の制約上、生徒達が記述した学習シートの分析や考察、具体的な学びの過程や生徒個々の学びの変容、開発した学習シートの細部・詳細と考察等の詳細は論じることができなかつた。別稿を期したい。
- 3 本稿の提案をテーマとした公開研究会「『深く人間的な学び』を創るこれからの授業と評価－求められる資質・能力と伝記教材の活用－」（2017年1月9日「ウイंकあいち」）が開催された（主催「21世紀型教育研究会」名古屋及び愛知県教育委員会後援。会長：佐藤洋一、副会長：兵藤伸彦・鈴木悟志、理事：岡田豊・雨田陽三・澤井恒樹・森和久・水野達彦・蜂須賀渉・岡春彦・萩原孝・青木一起・脇田尚武、事務局長：吉川和良、副事務局長：室賀美紀・加藤洋佑・有田弘樹・鈴木大文）。